

## 日本学術会議

### 政治学委員会比較政治分科会（第24期・第2回）議事要旨

開催日時 2018年4月4日（水）16時15分～18時00分

開催場所 国際文化会館 セミナールームE

出席者 眞柄秀子、河田潤一、小川有美、大串和雄、高橋百合子、加藤淳子、磯崎典世、恒川恵市の8名。

#### 議事概要

1. 眞柄分科会委員長から、①ジェンダーの視点を取り入れた活動を拡大すべき、②SDGsへの取組みを強化すべき、との学術会議全体としての今期のスタンスが紹介された。

2. 24期分科会の活動について、次のような審議を行った。

（1）河田委員から、23期政治学委員会提言「高等学校新設科目『公共』にむけて—政治学からの提言」のフォローアップのために、同提言で触れた諸課題の一つ、例えば「政治的中立性」についての歴史的・比較論的検討などを含む「報告」を準備することについて、本分科会に先立って開催された24期第3回政治学委員会で提案があった、との報告があった。

（2）大串委員および加藤委員から、講演会のために来日するオハイオ大学の教授を招いて、比較政治分科会主催のシンポジウムを開催したらどうかとの提案があり、2019年1月8日（火）16時から「学術研究におけるジェンダー」というテーマで開催することを決定した。またディスカッサントの1人として、比較政治分科会から高橋百合子委員が参加することになった。

（3）眞柄分科会委員長より、「社会的投資政策の多様性—新福祉成長ミックスの可能性と課題」というテーマでの「報告」の作成に、分科会として取り組みたいとの提案があり、比較政治分科会の下に外部専門家若干名を含む小委員会を設け、眞柄委員長が中心となって作業を進めることを決定した。同報告は2019年中に査読のために学術会議に提出することを目指し、その前に公開シンポジウムを開催して意見を募ることも視野に入れる。

（4）磯崎委員より、学術会議主催で比較政治学会年次大会の場で開かれる予定のシンポジウムの準備が、予定通り進んでいる旨の報告があった。

3. 今後の分科会の運営について、眞柄委員長から次のような諸点が指摘された。

（1）分科会会合の議事録は幹事が作成し、全出席者の確認をとった上で、学術会議ウェブ

サイト上で公開すべく事務局に速やかに提出する。

(2) 分科会での決定は、政治学委員会の追認を要しない最終決定として取り扱われることが確認された。

(3) シンポジウム等の開催に関して、学術会議の講堂および会議室の週末・祝日での利用が限定的ではあるが可能となった。ただし、事前に幹事会の承認手続きをとっておく必要がある。

(4) 第1部総合ジェンダー分科会から、学協会に対する survey 協力の要請が来ているので、比較政治学会に協力（会員への survey questionnaires の配布）を要請することにした。

(5) 次回分科会は6月23日11:30から、次々回は10月上旬の学術会議総会に合わせて開催することにした。

#### 配布資料

「〔報告〕素案 社会的投資政策の多様性：新福祉成長ミックスの可能性と課題」